

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592800072		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事振興会		
事業所名	グループホームすずらん東成瀬		
所在地	秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字上野76番3		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の目線に立ち、共に笑顔で過ごし、支えあえる関係を目指した支援をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな野山がホームの庭のようで、天候や季節の変化を目や耳で感じることができる環境に立地しています。コロナ禍で利用者と住民との交流に制限を設けてはいますが、野菜のお裾分け等があり、従来の関係を大切にしながら普通の暮らしが営まれています。周辺には公共施設や住宅があって生活環境に恵まれ、福祉施設とは相互に支援、協力しながらサービスを提供しています。管理者は職員の意見を引き出す努力をしており、言い出しやすい環境が利用者へのより良い支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目標の達成度を検証して毎年度見直しを行い、全職員が同じ意識でより良いケアに繋がっていきけるよう取り組んでいます。	皆で考えた目標を共有し、時に日々の支援を振り返り、実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症流行によって途絶えてしまったつながりがまだ完全には戻せていないが、少しずつだが他事業所などと交流する機会もどつつある。	招待を受けて他事業所の行事に参加し、訪問理容は近所の方に来ていただいています。また、ボランティアの来訪も近いうちに再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症の為今まで出来ていなかった運営推進会議を、本年度より対面開催し、理解に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の為今まで出来ていなかった運営推進会議を、本年度より対面開催し、サービス向上に努めている。	会議開催が村内の情報入手する機会でもあります。参加者から意見を引き出すためにも、状況報告にとどまらず、会議資料の作成を工夫する等してサービスの向上に繋げる取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やケア会議を通して交流し、協力関係を築く様に努めている	相談事項に対応していただく等、行政とは密に連携を図っています。ケア会議は毎月開催され、他事業所と情報交換の場となっています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夜間のみ玄関の施錠をしている。 身体拘束をしないケアを研修で学んだり、マニュアルを事務所に置いたりして身体拘束についての知識を高めている。	職員は研修で理解を深め、身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員によって知識の差はあるが、研修やOJTなどで知識を深めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただける様に努めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、それらを運営推進会議やミーティングで外部の人や職員に共有している。 また、面会に来た際などに家族から要望などを伺っている。	入居時に要望を聞いている他、利用者のホームでの状況を報告をしながら意見等の引き出しに努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のミーティングやなんでもノートで受け付け反映させている。	管理者は職員が話しやすい環境をつくって意見を引き出せるよう努めており、直接或いはなんでもノート等、さまざまな手段で意見、要望を受け付け、運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者がケア会議の参加などで同業者と交流する機会があり、そこで得た情報などをミーティングなどで職員に共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書、面接調査書を基に、ご本人の想いに耳を傾け理解するように努め、安心した関係を築ける様にしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報提供書、面接調査書を基に、ご本人の想いに耳を傾け理解するように努め、安心した関係を築ける様にしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護されるだけでなく、一人一人のできる事や役割を見つけ一緒に行うようにしている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、毎月の月間報告を利用し、日々の状況を知らせ絆を大切にしている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	かかりつけの病院や馴染みの理容室など利用したりする他、希望があれば電話対応を行い関係が途切れない様に努めている。	ボランティアの来訪を近いうちに再開する予定にしている他、訪問理容の方と話ができるのも利用者には楽しみになっています。家族にも協力をお願いしながら関係継続の支援に努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皿拭きや工作、レクリエーションなどの場面で、利用者同士が関わり協力しあえるように、気の合う方たちが近くなるようにしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じていつでも相談に来ていただける様に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意見や希望を表現しやすい様に声かけしたり、本人とのコミュニケーションや行動などの中から意向の把握に努め、ケアプランに反映などしている。	利用者が希望することを伝えることがほぼないため、普段の関わりの中から思いを感じ取るようにしています。記録に残して情報を共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションをとる中で情報を把握するように努めています。 個々の記録や入所時の情報なども元に把握しようと努めています。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ミーティングやモニタリング、ご本人、ご家族、関係者から、お話を伺いながら介護計画を作成している。 詳しく記録を書くだけでなく、見やすいように様式を変更するなど日々検討している。	個々の介護計画に沿って支援内容を毎日の記録でチェックし、モニタリング、カンファレンスでの話し合いを経て介護計画を見直しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、ケース記録、ミーティング、モニタリング、なんでもノート、申し送りを通し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 本人の言葉ややりとりなども記録に残している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	診療所や薬局、歯科往診、地域の行事への参加、なじみの理容室などの利用等をしている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診が継続していける様、家族が受診対応できない場合はホームで対応している他、家族の希望に沿った病院に通える様に支援している。受診後は報告書や、状況によっては電話で家族に伝えている。	協力医が近いこともあり、入居時に協力医への変更を了承していただき、ホームで受診対応しています。眼科、皮膚科も定期的な受診であることからホームで対応しており、協力歯科、薬局とも連携し、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職がない為、定期受診や緊急時にかかりつけ医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、様子を伺う際に病院の職員と意見交換をし、受診ノートに記録し職員全体に反映している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っておらず、入居の段階でホームに出来る事を説明し、他施設などの利用を勧め理解していただいている。本人や家族の希望によりホームで対応せざるをえない時もあるので、しっかりと話し合い終末期の方針を決めている。	医師の協力が得られることになり、ホームで看取りを行っています。家族がホームでの看取りを希望することが多くなり、ホームでできることを踏まえ、家族の協力も得ながら支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル設置の他、消防署立ち合いの元、救命講習を行って急変に備えている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの元、避難訓練や消火訓練を行っている。また、自動通報装置で全職員の他に近隣住民にも通報が行くように設定し、協力を得ている。その他に防災無線を設置しており、災害の発生がすぐわかるようになっている。	消防署、指定避難場所が近く、避難用に予備の車椅子を準備し、担架も準備して普段はベンチとして廊下に置いており、発電機の作動訓練も毎週行っています。2ヶ所ある非常口には手すりとスロープが設置されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の気持ちを考え周囲に配慮した声かけを心がけている。言葉が伝わりにくい方には、ジェスチャーや筆談で伝える様に工夫している。	年長者として敬意、特にトイレ誘導の際の声かけの仕方には配慮ある対応をするよう職員には伝えていきます。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は希望に沿ったり時期をみて行っている。衣服も選べる方は本人が選んで着ている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じ取れる様に、季節の食材を取り入れる様に努めている。出来る方には、盛り付けや皿拭き・テーブル拭き等を手伝っていただき、一緒になって準備・片付けを行っている。	利用者の食べたいものを誕生日に提供したり、差し入れの山菜や野菜を献立に取り入れ、職員と一緒に食事をしています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量を毎日記録し、多く必要な方には声かけや提供方法に工夫している。また、個人の状況に応じて刻み・やわらかめ、トロミ剤使用などの工夫も行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に歯科往診している方もおり、各自に合った用具を使い口腔内の清潔に努めている。 毎食後強制にならないよう声かけをし、口腔ケアを行っていただき、必要に応じて介助を行う時もある。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツや尿取りパットは各自に応じて使用していただき、なるべく汚す前にトイレで排泄していただける様に、プライバシーに考慮しつつ声かけしている。	チェック表を活用して声かけ、誘導を適時行い、失敗の軽減に取り組んでいます。男性利用者は男性用便器を使用しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	曜日を決めて牛乳・ヨーグルトを提供したり、毎日軽運動を行っていただくなどをし、排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	各人の体調・バイタルを確認した上で、受診や外出・同性介助などあるが、週に2~3回入浴していただいている。拒否がある場合は様子を見たり時間変更をし柔軟な対応を心掛けている。	介助しやすい位置に浴槽が設置され、利用者は湯船に浸かってゆっくり入浴することができます。毎日沸かしているため、拒否があっても無理に誘うことをせず、日を変える等して柔軟に対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に応じて静養時間の確保に努めている。週に1回シーツを交換して清潔を保ち、気持ちよく休んでいただける様に努めている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の効能や副作用の一覧を事務所にファイリングしている。薬のダブルチェックや服薬時に名前確認や飲み忘れがないかも確認している。状態の変化を記録し、受診時に伝えている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割やレクリエーション、外出等で気分転換が図れるように努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調などにもよるが散歩やドライブに出かけている。受診後などに外食など感染症流行までは行っていたが、今年度はまだ外食は控えている。	季節の花を観に車で出かけています。外出を好まない利用者が多いものの、外でお茶とお菓子をいただいたりして、戸外でリフレッシュできる機会をつくっています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理させていただき、中には自分で所持して外出時に使用される方もいる。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除・消毒している他、常時湿度・温度をチェックし、エアコン・除湿器・加湿器等を利用して快適な環境を保っている。また、季節感を感じ取れるような掲示をし、四季を感じ散れるように工夫している。	洗濯物を外干しできない季節になり、除湿清浄機、サーキュレーターを併用しながら、利用者の動線に影響しない場所を選んで室内干しをしており、廊下にも通行の邪魔になる物はなく、利用者の動向を考えて生活空間の環境を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや席順の工夫をしている。ソファールでお話できるようにもしている。しかし、空間が限られているので、席替えだけでは上手いかない事もある。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物を持ってきていただき、希望に沿った配置にしている。また動線などに配慮し、安全にも努めている。	収納スペースのある居室は清潔に管理され、好みの物を身近に置いて、落ち着いて過ごせるよう工夫しています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所、廊下に手すりを設置し安全に歩行出来るようにし、車椅子の方には段差をなくし自走しやすい様にしている。日めくりカレンダーなどわかる人には手伝ってもらえるように工夫している。		